

1-4. 歩行者認知遅れ事故における交通環境要因の分析

背景・目的

車両相互・車両単独による死亡事故件数は減少傾向であるが、歩行者事故に関しては依然減少していない。このため、歩行者事故の発生メカニズムの解明し、対策を考案することが重要となっている。

このため、マイクロデータ分析より歩行者認知遅れ事故の特徴を捉える必要がある。同時に、特定の地域で収集されたマイクロデータの分析から得られた特徴が、国内の事故発生状況に整合しているのかを確認する必要がある。

概要

マイクロデータを用い、認知遅れ（前方不注意、安全不確認）による歩行者事故の状況（運転者側要因、交通環境側要因、歩行者側要因）を、走行場面（交差点右左折、交差点直進、単路直進）ごとに分析・整理し、歩行者認知遅れ事故の特徴を分析する。

また、マクロデータ集計から求めた歩行者認知遅れ事故の発生状況と、各走行場面における歩行者事故の発生状況が、実際の発生状況とどの程度整合しているかを確認した。